

平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	21人	算数	21人	理科	21人
第5学年	国語	19人	算数	19人	理科	19人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

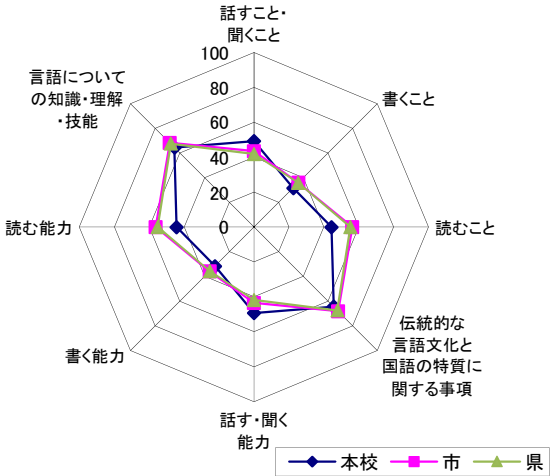
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原北小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	49.2	43.5	41.8
	書くこと	31.7	35.9	35.8
	読むこと	44.4	56.3	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	64.5	68.2	67.5
観点	話す・聞く能力	49.2	43.5	41.8
	書く能力	31.7	35.9	35.8
	読む能力	44.4	56.3	55.2
	言語についての知識・理解・技能	64.5	68.2	67.5



★指導の工夫と改善

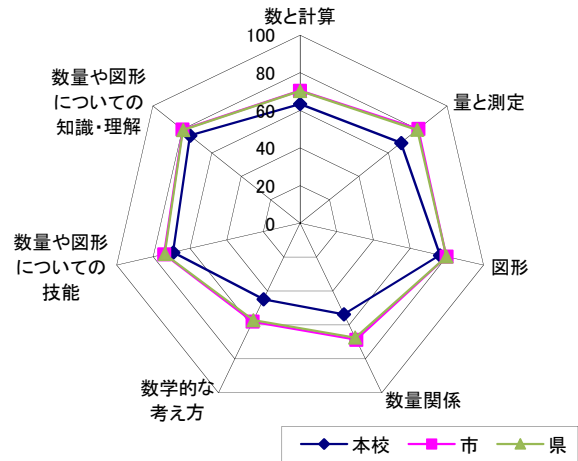
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○ 平均正答率は、他の領域と比べて高く、市や県を5ポイント以上超えている。 ● 話合いの仕方について選択する問題の正答率は高いが、話合いの結果に至った理由を文章に表すことができない児童が多い。	・普段の話合いの中で、意見だけでなく理由を含めて発言したり、相手の考えやその理由をよく聞いたりするよう指導する。
書くこと	○● 招待状に入れる2つの内容を一文にまとめて記述することはできるが、意見や話合いを基に、招待状に入れるべき要素を選択したり記述したりすることができない児童が多い。記述式の問題では、誤答や無回答が多かった。	・国語の授業に限らず、課題に沿った必要な言葉を取り入れて授業の振り返りを書くなど、文章に表す経験を増やしていく。
読むこと	● 説明文において、文章と図を関連付けて読んだり、目的に応じて文章を要約したりすることができない児童が多い。 ○● 物語文において、登場人物の気持ちを想像して読んだり、物語上での役割をとらえたりすることはできる児童も多いが、個人差が大きい。	・説明文では馴染みのない言葉が出てくることが多く、理解が難しい児童もいるので、いろんな分類の本に親しむようにさせる。 ・授業の中で、本文と図や絵を関連付けて内容理解をする機会を多く取り入れる。 ・物語文では、登場人物の行動や心情の変化に注意して読む場面を設定することで、読解力を高める。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○ 漢字を書くことについては、できる児童が多い。 ● 会話文を書きぬく問題では、漢字をひらがなで書いたり、文を変えてしまったりした誤答がとても多い。	・宿題やモジュールを活用して漢字練習や漢字テストを行い、漢字の定着を図る。 ・問題を正しく読み取り、問題に合った答え方ができるよう指導する。また、間違えた問題を直すことに力を入れ、間違いの癖に気づくことで同じ間違いが減るようにさせる。

宇都宮市立清原北小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.4	70.5	70.3
	量と測定	68.6	80.4	79.6
	図形	76.2	79.8	79.7
	数量関係	53.7	68.7	67.5
観点	数学的な考え方	44.8	58.0	57.2
	数量や図形についての技能	69.2	74.1	73.7
	数量や図形についての知識・理解	74.8	79.9	79.5



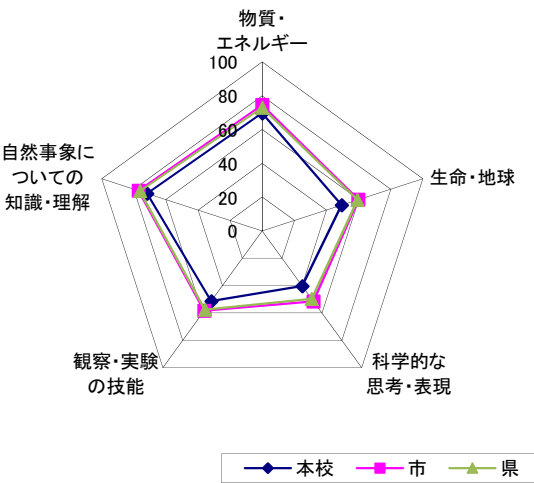
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○ 分数の大きさや分数の計算についてよく理解している。 ● 計算の仕方の理解はできているものの、たし算やひき算の正答率が市を下回っており、ケアレスミスが多い。	○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの 今後の指導の重点 ・普段の授業などから、慎重に計算すること、見直しをすることを徹底させる。 ・宿題を中心に基礎・基本の定着を図る。
量と測定	○ 長さの換算は理解している児童が多い。 ● ある時刻から一定時間前の時刻を求めることができていない児童が多い。時刻の単位換算もできていないため、時刻と時間の学習内容は十分に理解できていない。 ● 身近にあるものの重さを推察する問題の正答率は市の平均を下回っている。	・学校生活の中で時刻や時間について意識する機会を増やすなど、体験的な活動を取り入れることで時間や重さなどの量感を育てる。
図形	○ 紙を切ってできる図形を選ぶことや三角形の作図など、体験的なものはよくできている。 ● 円と球の直径や半径についての理解が不十分であり、市の平均を下回っている。	・円や球について、直径や半径などの基礎的事項の復習をし、定着を図る。
数量関係	○ 棒グラフの読み取りについては理解できている児童が多い。 ● □を用いた乗法の式に適した場面を選んだり、問題場面を表わす線分図を完成したりすることができない児童が多い。また、問題から必要な情報を取り出したり、式の意味を読み取り適した説明を選んだりする力も十分ではない。	・授業の中で、図や式、数直線などを使って問題の内容を表す場面を設定し、式が持つ意味を理解させる。 ・問題文を読んで、加法、減法、乗法、除法のどれが適切か判断できるよう□を使った式に慣れさせ、定着を図る。

宇都宮市立清原北小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	69.7	74.5	72.9
	生命・地球	49.4	59.8	59.2
観点	科学的な思考・表現	40.3	51.6	49.7
	観察・実験の技能	51.4	58.4	57.7
	自然事象についての知識・理解	71.7	77.0	76.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○ 光の性質、磁石の性質については、平均正答率が高く、よく理解できている。 ● 風やゴムの働きでは、理解が十分ではない上に、問題文の読み取り、表の読み取りが難しく無解答も多くみられた。 ● 電気を通すつなぎ方を答える設問では、問題文の読み取りが不十分で、誤答をする児童が多くみられた。	・答えがいくつあるか、言葉で答えるか記号で答えるかなど、問題文を丁寧に読み取り、問題に合った答え方をしよう指導する。 ・授業を通して、実験結果の読み取り方、考察する方法を指導する。また、自分の言葉で考えを表現する機会を設ける。
生命・地球	○ 方位磁針の適切な使い方が理解できている。 ● 「太陽と地面の様子」で、平均正答率が低かった。これは時間配分ができず問題に取り組めなかった児童が無回答であったことが考えられる。 ● 身近な自然の観察では、理解が十分ではない上に、問題文や表の読み取りに時間がかかり、時間が足りないために無解答も多くみられた。	・昆虫や植物の体の特徴など基礎的事項を確認し、定着を図る。 ・観察結果や表の読み取り方、考察する方法を指導する。また、自分の言葉で考えを表現する機会を設ける。 ・観察・実験結果に表やグラフなどを用いてまとめることで、表やグラフの読み取り方を定着させる。 ・温度計や虫眼鏡などの器具を操作させる時間を確保し、使い方の定着を図る。

宇都宮市立清原北小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「話す・聞く」に関する質問には、ほとんどの項目で肯定回答が高く、友達の前で自分の考えを発表したり、友達の話最後まで聞いたりすることへの意識が高い。授業中に自分の考えを伝える場面を意図的に設定したり、学級活動や係活動を活発にすることで、話すことや聞くことに対する高い意識を維持していく。

○「学習は将来のために大切だと思う」「将来の仕事や生活の中で役立つと思う」の肯定回答が95%以上と高い。また、学習意欲に関する質問では、ほとんどの項目で肯定回答が高い。

○授業に関する項目「目標が示されている」「振り返る活動をよくしている」「学習の目標とまとめをノートに書いている」の肯定回答が高く、市や県の割合を超えている。ノート指導を中心に、児童がその時間の目標を意識して学習できるように努める。

●「問題を解く時間は十分でしたか」の質問項目では、どの教科においても肯定回答は低い。特に国語の問題を解く時間が足りなかったと感じた児童が多かったので、文章を素早く読むことができるよう、学校図書館と連携し読書を推進する。また、短い時間でも解答することができるように、基礎・基本の徹底、時間配分を考えて課題に取り組む習慣をつけさせることに力を入れる。

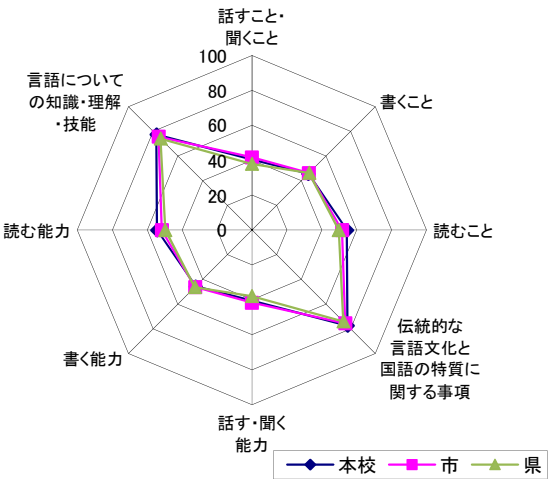
●家庭での予習・復習やテストで間違えた問題についての学習の取り組みについては、市や県の肯定回答割合を超えているが、A-D層の差が大きく、個人差が大きいことがうかがえる。予習・復習の仕方を指導し、自主学習を奨励していく。

●「難しい問題に出あうとやる気が出る」の質問では、A-D層の差が60%と大きく、特にC-D層の差が一番大きい。難しい問題でも取り組むことができる粘り強さが身に付くよう、成功体験を積みませ、適切な声掛けをしていく。

宇都宮市立清原北小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	40.4	41.6	37.9
	書くこと	45.6	46.1	46.3
	読むこと	54.4	51.6	49.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.4	75.6	74.0
観点	話す・聞く能力	40.4	41.6	37.9
	書く能力	45.6	46.1	46.3
	読む能力	54.4	51.6	49.7
	言語についての知識・理解・技能	77.4	75.6	74.0



★指導の工夫と改善

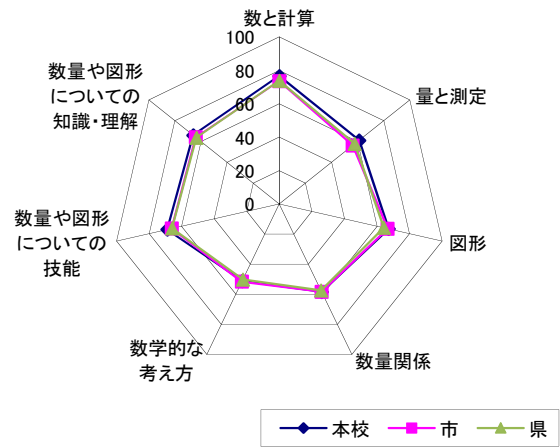
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の平均に比べてやや高い。 ○提案者の役割や話し合いの内容について理解することができている。 ●進行に合った内容で新たな案を提案することについて、提案理由を記述するのが苦手な児童が見られた。	・学級会などの話し合いを通して、提案者や司会などの役割を確認すると共に、理由を挙げながら意見を述べたり聞いたりするよう指導する。
書くこと	平均正答率は、昨年とほぼ同様である。 ○必要な情報を読み取り、学級新聞の見出しを選択することができている。 ●学級新聞にアンケート結果を乗せる際の、効果的な資料の見せ方について理解できていない児童がいた。 ●資料や話し合いを元に文章を考え記述する問題では、無解答の割合が多かった。	・昨年と同様、資料の効果的な活用が苦手な傾向にある。引き続き、授業の中で資料が効果的に扱われている例を取り上げて指導したり、他教科において新聞作り等を通して実践的な力を身につけさせたりする。
読むこと	平均正答率は、市の平均に比べてやや高い。 ○説明文では、段落相互の関係を理解したり、文章を要約したりすることについての正答率が高い。 ○物語文では、叙述に即して登場人物の気持ちを読み取ることができている。 ●中心となる語を捉えたり、文章中の言葉が示す内容を正確に読み取ったりすることができていない児童が見られた。	・説明文の読み取りは、昨年に比べてよくできていた。今後も引き続き、筆者の意図を理解しながら内容を読み取る。 ・おおまかな文意は理解できているが、一つ一つの言葉が示している内容について把握できていない児童が多いので、授業の中で確認しながら読み取る習慣をつけさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、他の領域と比べて高い。 ○漢字の読みやことわざについては、きちんと理解できている児童が多い。 ●漢字の書きや漢字辞典の使い方についての理解が十分でない児童が多い。	・漢字辞典の使い方について、国語の時間を中心に継続して指導することで定着を図る。また、学年の漢字だけでなく、既習学年の漢字についても復習する機会を設けていく。

宇都宮市立清原北小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	76.6	73.6	73.7
	量と測定	61.1	56.2	57.7
	図形	67.1	66.5	64.2
	数量関係	58.4	58.4	57.5
観点	数学的な考え方	51.1	51.7	50.3
	数量や図形についての技能	68.9	66.1	65.9
	数量や図形についての知識・理解	66.0	64.0	63.5



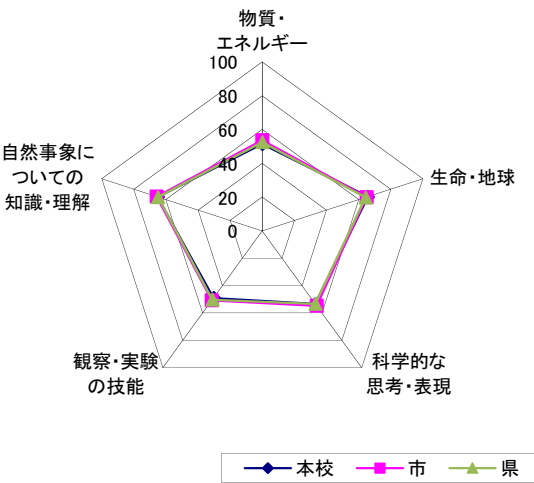
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、昨年とほぼ同様で、他の領域と比べて高い。 ○計算の仕方を理解し、おおむね良好である。特に、小数の計算や億と兆、概数の表し方について正しく理解している児童が多い。 ●不注意による誤りや勘違いをしてしまう児童が見られる。	・○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・昨年も同様の間違いが見られたので、今後も慎重に計算したり、見直しをしたりする習慣をしっかりと身につけさせる。
量と測定	平均正答率は、市の平均に比べて高い。 ○面積を求める問題は、およその面積も含め比較的正確に理解できている。 ●面積の単位変換(1㎡をcm ² に直す)は苦手としている児童が多い。	・既習の長さの単位を元にして、面積や体積の単位と相関関係を体験的な活動を取り入れて確認する。
図形	平均正答率は、市の平均に比べてやや高い。 ○直方体や立方体の性質や展開図について、しっかり理解できている児童が多い。 ●ひし形や二等辺三角形の性質について、記述する問題は、正答率が3割弱だった。	・いろいろな三角形や四角形の性質を確認すると共に、筋道を立てて考えたり、自分の言葉で説明したりする場を積極的に設ける。
数量関係	平均正答率は、市や県の平均とほぼ同様である。 ○ともなって変わる2つの数量関係を表から読み取ることがよくできている。 ●図を用いて、比較量と倍から基準量を求めることを理解できていない児童がいる。	・問題の内容を把握できていない児童もいるため、問題文で大切なところに線を引いたり、図や数直線を用いて問題の内容を整理したりするよう指導する。

宇都宮市立清原北小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	51.6	53.7	52.5
	生命・地球	65.6	64.9	64.3
観点	科学的な思考・表現	53.5	54.7	53.4
	観察・実験の技能	49.1	50.8	50.3
	自然事象についての知識・理解	65.2	65.7	64.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市や県の平均に比べてやや低い。 ○空気と水の性質や、空気は熱せられると上方に移動することについて理解できている児童が多かった。 ●金属、水、空気と温度については、理解が十分でない児童が見られた。特に、水と温度については、対流や体積の変化、水蒸気などへの状態変化について、理解できていない児童が多かった。	・授業の中で、もののあたため方について、既習事項を整理し確認する。 ・実験の内容や結果については理解しているが、なぜそうなるのかなど科学的に思考する力が弱い。実験に際し結果を予想したり、実験後に結果を元に考察したりする時間を設ける。
生命・地球	平均正答率は、市や県の平均に比べてやや高い。 ○月の形の変化のしかたや、月の一日の動きについてよくできている。月の形の変化については、市や県の平均正答率を大きく超えている。 ●人の体のつくりと運動では、関節のしくみについての理解が十分でない。 ●星座早見盤の持ち方や使い方について理解できていない児童が多い。	・人の体のつくりや星の動きについて、既習事項を確認し定着を図る。 ・さまざまな実験・観察において、操作や体験を通して基礎的な知識を身につけたり、練習問題などで定着を図ったりする。

宇都宮市立清原北小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○昨年に引き続き、「学校のきまりを守っている」という質問に対しての肯定割合が高く、100%である。今後も、きまりや約束を守ることの大切さなどについて確認していくことで、互いに気持ちよく生活しようとする意識を高めたり、社会性を身につけさせたりしていく。

○「人と話すことは楽しい」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」という質問に対しての肯定割合が高い。今後も互いに学び合う雰囲気を大切にしながら、積極的に授業の中で話し合いの場を設定していく。

●「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」「家で、テストで間違えた問題について勉強している」という質問についての肯定割合が比較的低い。昨年に比べ、家での学習習慣は身につけてきたものの、自主学習の内容に戸惑っている様子がうかがえるので、様々な例を提示しながら自ら学ぶ力を養う。

●「難しい問題にであうと、よりやる気がでる」「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」という質問に対しての肯定割合が低い。授業の中で積極的に自力解決の場を設定し、最初に見通しを立てたりスモールステップで課題に取り組んだりすることで、意欲を喚起し達成感を味わえるようにしていく。